

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676300140
法人名	有限会社 澤津ケアサービス
事業所名	グループホーム ぬくもりの里
訪問調査日	平成 21 年 8 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成 21年 8月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	4676300140
法人名	有限会社 澤津ケアサービス
事業所名	グループホームぬくもりの里
所在地	鹿児島県曾於市大隅町中之内6078-9 (電 話) 099-471-2802

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月 5日
評価確定日	平成21年9月1日

【情報提供票より】(21年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 6日
ユニット数	2 ユニット
職員数	21 人
利用定員数計	18 人
常勤	12 人
非常勤	9人
常勤換算	18.0 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	光熱費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	7 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	医療法人愛誠会昭南病院 井上歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年10月に開設された、緑の屋根(つつじ棟) 青い屋根(さくら棟)のグループホームぬくもりの里は、自然の多いのどかな場所にある。近くには、小学校や高齢者コミュニティセンターがあり、地域の方々との交流が図りやすく、地域に開かれたホームである。利用者の高齢化・重度化に伴い医療依存度の高い利用者が多いが、ホーム長は看護師であり、職員の中で看護職員の占める割合も多く、医療連携が出来ており、本人・家族も安心できるホームである。介護職員に、若い男性の割合が多く、利用者は孫のように職員は自分の祖父母のように関わり合いアットホームなグループホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を玄関に掲示し、運営推進会議・家族会・職員ミーティングで報告している。昨年は、改善点はなかったが、職員のレベルアップのために、問題点をあげ、ミーティングで話し合っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の自己評価を参考に、スタッフミーティングで話し合い自己評価を作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を公民館長・行政職員・家族代表などの参加で過去一年に5回開催している。スライドを使って、事業所の活動報告・ヒヤリハットの報告をしている。参加者の意見を頂いたり、地域の行事などの情報を知る機会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会・敬老会・運動会時に、家族から意見を聞く機会を作っている。面会時にも家族からの意見を聞くように心がけ、意見を職員とミーティングや担当者会議で話し合い、運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者が以前、民生委員など地域に貢献されていたため、コミュニティセンターの行事に参加したり、地元の人々との交流ができています。小学校・保育園の行事への参加、また子供たちが事業所の行事へ参加するなど、交流が成されている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年度の改正された介護保険法に基づき、地域密着型サービスとしての理念として「開かれたホームとして地域との交流を図ります」と、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念に基づいたケアの実践のために、職員一人ひとりが、達成目標・分析・評価を行い、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が以前、民生委員など地域に貢献されていたため、コミュニティセンターの行事に参加したり、地元の人々との交流ができています。小学校・保育園の行事への参加、また子供たちが事業所の行事へ参加するなど、交流が成されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価を参考に、スタッフミーティングで話し合い自己評価を作り上げている。外部評価の結果を玄関に掲示し、運営推進会議・家族会・職員ミーティングで報告している。昨年は、改善点はなかったが、職員のレベルアップのために、問題点をあげ、ミーティングで話し合っている。	○	各ユニットで、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、ユニットでまとめた自己評価の取り組みを記録に残すことを望みます。外部評価も改善の取り組み状況を記録に残すことを勧めます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を公民館長・行政職員・家族代表などの参加で過去一年に5回開催している。スライドを使って、事業所の活動報告・ヒヤリハットの報告をしている。参加者の意見を頂いたり、地域の行事などの情報を知る機会になっている。		

鹿児島県 グループホーム めくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市町村の福祉アドバイザーの見学や認知症の勉強に使ってもらい、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。また、「めくもり新聞」を市町村に届け、情報提供をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「めくもり新聞」を発行し暮らしぶりを報告している。年1回の家族会・敬老会・運動会でも、状況報告をしている。面会時・メールで個々に合わせた報告をし、預かり金も家族に報告しサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・敬老会・運動会時に、家族から意見を聞く機会を作っている。面会時にも家族からの意見を聞くように心がけ、意見を職員とミーティングや担当者会議で話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの交流を密に行い、全職員がどちらのユニットの利用者とも馴染みの関係を作り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の研修計画を作成している。新人研修は、「新人研修の資料」が作られており、現場で指導担当者をつけ能力に応じて教育している。外部研修は、研修報告をミーティングで行い、その後報告書を全職員に回覧して共有できている。地域の認知症の勉強会である「夜明け会」に参加するように職員に指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成21年3月より二ヶ月毎に、曾於市のグループホーム・小規模多機能の会に参加して、情報交換をしている。職員の地域の同業者との交流の機会が多いが相互訪問等の活動は少ない。	○	職員が、同業者との交流・相互訪問などの活動を通じて、職員一人ひとりのサービスの質の向上に努めることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者・家族の見学を行い納得してサービスを開始するようにしているが、已む得ずすぐに利用開始する場合は、家族の面会を多くしてもらい、職員・他の利用者とのコミュニケーションを密にとり、場の雰囲気に徐々に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの生活暦を知ること努め、個性を大切に、利用者から学ぶ姿勢を心がけている。学ぶ場面を多く持つように、戦争のDVDと一緒に観たり、ちまき作り・いもあめ作りなど場面づくりの工夫をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の日々の関わりの中で、声かけして利用者の表情・行動・言動から利用者の思いや意向を把握するように努めている。職員の気付きを大切に、業務日誌や連絡ノートに記録して職員の情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医・訪問看護の意見も取り入れ、職員の気付きを大切に、合同カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一回モニタリングを行い、対応できない変化が生じた場合や本人・家族の要望に応じて、担当者会議をして現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を行い、利用者が医療処置を受けながらの生活の支援をしている。家族の要望に応じて、病院受診・外出支援など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医になっており、医療連携を密に行い、訪問看護を取り入れ適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル・看取りの介護体制・危篤時の延命処置についてなど、家族への重要事項説明時に説明し同意をもらっている。重度化及び看取りに関する指針・緊急時のマニュアルがあり、職員全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで、利用者の自尊心を傷つけないように接遇に気をつけ、誠意を持って対応するように、繰り返し指導している。守秘義務を守ることを職員の入職時に契約書をかわしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	、本人のペースで食事の時間をかけたり、帰宅願望の方には散歩・ドライブにでかけたりと希望にそって支援している。		

鹿児島県 グループホーム ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け・茶碗洗い・お盆拭きなど利用者の力量にあわせて職員と一緒に食事に関する一連の作業をしている。職員も一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期的に(隔日)に入浴を支援しているが、希望すれば毎日でも可能である。入浴を拒む方へは、声かけのタイミングやスタッフを変えるなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちまき・芋飴・蓬もち・もち・そば作りを利用者から教わりながら一緒に作ったり、写経・読書・歌唱など利用者の好きなことを支援している。ドライブ・散歩など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の敷地内の菜園の手入れ・収穫をしたり、自宅へのドライブ・事業所周辺の散歩など、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵はかけていない。外出傾向のある利用者には、さり気なく声かけしたり、一緒に出かけていくなどして、鍵をかけないケアに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の方々に、日頃から行事などに参加していただき、災害時に協力を得られるように働きかけている。	○	地震・風水害の避難訓練の自主訓練を行い、職員が自信を持って避難誘導できるように期待します。非常食・飲料水の準備をされることを望みます。

鹿児島県 グループホーム ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量をチェックしている。利用者の健康状態や食べる力に応じて、ミキサー食・刻み食にして、支援している。定期的に血液検査を行い、カリウム低下には果物を増やしたり、貧血には鉄分の豊富な食べ物を増やしたりと栄養のバランスを心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳み・堀コタツのあるスペース・ソファのあるスペースが食堂兼居間にあり、利用者は思い思いの場所で過ごしている。テーブルには、季節の花が飾られ季節を感じる支援が成されている。2つのユニットの間には、芝生が植えられベンチが置いてあり、天候がよく戸外で過ごしやすい季節には、利用者が外気浴できるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドレッサー・テレビ・ソファなど利用者が使い慣れたものを自宅から持ち込まれている。家族が訪問してくつろげる部屋も作られている。		